

コウゾリナ

Picris hieracioides var. glabrescens

キク科



コウゾリナの花

名前の由来

茎や葉の剛毛をかみそりに見立ててカミノソリ菜という意味で名付けられた。漢字名：髪剃菜

形態的特徴

高さ50~100cmで直立、茎や葉に赤褐色の剛毛があり、ざらつく。剛毛はルーペで見ると、先がいかりのようなかぎ形になる。葉は倒披針形で、縁には歯牙状の鋸歯がある。花は鮮黄色で径2.5cm内外、舌状花とよばれる小さな花が多数集まって頭花を形成し、茎の先に多数がまとまってつく。

類似種と見分け方：茎が立ち上がり、タンポポ状の黄色い花をつけるキク科の植物。コウゾリナは茎に赤褐色の硬い毛が多数あり、ざらざらすることが特徴で、葉の形などとあわせて見分ける。

生育環境・分布

日の当たる道端や河川敷、山地、海岸の草原などに生育する。

分布：国外分布は、樺太。

国内分布は、北海道から九州。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、日の当たる道端や河川敷、山地、海岸の草原などに普通に見られる。

生活史

開花時期：7月~9月。開花までの年数：2年。

寿命：2年草。

他生物との関わり

花には虫が訪れる。

興味深い話

■ 4~5月の茎がのびる前、地面に円形に広がったロゼット葉が、軟らかく食用になる。ゆでておひたしやあえもの、煮物、油炒めにし、また生のままてんぷらや汁の具にしても良い。健胃や整腸にも効果があるという。



コウゾリナ（左右とも）



〈右〉コウゾリナのロゼット葉

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期				■								
結実期				■								

参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」滝田謙譲 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本Ⅲ」佐竹義輔・大井次郎 他 平凡社 1981

「新版 北海道山菜図鑑」佐藤孝夫・小林隆正・久保秀樹 亜細亜社 2002

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
ワシ・タカ
鳥類